

い草の刈り取り作業を 取材しました（R5.7.11）



～ 坂本 一真さん（八代市）を訪ね、「い草」の刈り取り作業取材させていただきました。～

（参） 熊本県拠点地方参事官室では、GI登録されている熊本県産品をホームページで紹介できないかと考えていたときに、今回、ご縁があって「くまもと県産い草」の刈り取り作業取材させていただく貴重な機会を得ることができました。刈り取り作業が大詰めを迎えている時に、ご協力いただきありがとうございます。本日はよろしくお願いします。

（坂） こちらこそよろしくお願いします。「い草」を取り上げていただけるということなので、PRのためにも喜んで協力させていただきます。

< い草にける想い >

（参） 早速ですが、坂本さんが「い草」生産に取り組むことにした、きっかけについて教えてください。

（坂） 子どもの頃から手伝っていたということもありますが、20代後半から「い草」を守らなければという思いがありました。父と同じ年代になるまで約30年ありますが、そこまで続けることは難しいかもしれません。同世代の後継者がやめていく姿を見ているし、機械メーカーなども撤退しています。ですが、できるだけ長く「い草」を栽培していきたいと思っていますし、国産の「い草文化」を守っていきたいという思いで取り組んでいます。

（参） 「い草」の植え付け面積と、刈り取っている「い草」の品種を教えてください。

（坂） 「ひのみどり」を1.2haで栽培しています。刈り取り時に150～160cmになりますが、私は155cmがベストだと思っています。今日、刈り取りを行っている水田は、約5反ありますが、刈り取りには5日かかります。



< い草生産の現状 >

（参） 同世代の方が「い草」栽培をやめているとのことですが、「い草」栽培の現状について教えてください。

（坂） 30年程前は「い草」生産者は4～5千名程いましたが、その後、5年くらいで半減し、毎年1割、2割ずつ減少していて今では270件程度になってしまいました。新規参入は、もう40年ほどなく、新規就農者は後継者のみです。私より年下はいません。これから新たに「い草」栽培を始めるとなると設備投資が大変で、敷地や小屋、乾燥機など数億円の投資が必要となります。中古でも1億円程度はかかるので、「い草」をめぐる環境を考えると設備投資の費用回収は難しいのではないかと思います。

<国産い草の魅力>

(参) 「い草」の生産者が減少している要因のひとつに、外国産の「い草」が入ってきていることも考えられますが、国産と外国産と外国産の違いについて教えてください。

(坂) 品質と安全性ではないでしょうか。国産い草は、有機質肥料などを投入しており、栽培技術も進んでいるため外国産とは品質が違います。外国産のい草を取り扱っているメーカーと話した際に、耐久性、1年後、2年後の色変わりはかなり違うという話を聞いたことがあります。また、安全性という面では、国産のい草は、安全基準が厳しく管理されているという点で外国産とは大きく違うと思うので、その点を広めていければと思っています。

(参) 安全性という面では、くまもと県産い草畳表は、QRコードから生産履歴などが確認できる仕組みになっていますが、例えば、QRコードを読み取ったお客様から反応があったなどのエピソードはありますか。

(坂) 私が作った畳表を使った畳を使用しているという人に会ったことは無いのですが、QRコードを見たお客様から何回か手紙をいただいたことがあり、とても嬉しかったです。エンドユーザーと繋がる機会が無くて、畳屋さんがお客様になっている状況ですが、畳屋さんも生産者の顔が見えるように写真を撮ったりするなど、PRに力を入れています。

<い草の可能性>

(参) 「い草」と言えば、やはり畳というイメージがあったのですが、事前に調べてみたところ、「い草」を用いた様々な加工品が販売されていました。加工品としての需要もあるのではないのでしょうか。

(坂) 「い草」栽培は、畳表として織って出さないと採算が取れないのですが、畳以外の用途についても研究が行われています。例えば、青汁の原料に使われていますが、食品用の「い草」は畳用とはまったく異なりますし、栽培方法も異なります。「い草」の特性を活かして、消臭剤や「い草」を束置いてインテリア商品として販売もされていますが、畳と同じくらい、もしくはそれ以上の収入源となるのは難しいです。採算が取れるように爆発的に売れば良いのですが。

～ 坂本さんのお父様にもお話をお聞きました。 ～

(父) 「い草」の全盛期は、御座を打たなくても原草で2万円していたこともあり、1代で立派な家が建っていた。だが、今では空き家が目立つようになっており、あと10年もすると…。農業所得が倍増して、他の産業より儲けることができ、海外旅行にでも行けるようになれば農業も魅力的になると思うが、補助金等で支援するだけではダメだ。補助金目当てでは続かない。

